

# DEBUT 首長

京都府宇治市長 山本 正氏



やまもと・ただし 1947年京都府(旧)野田川町生まれ。63年関西電力入社。73年府立朱雀高校卒。87年から宇治市議を3期12年、99年からは京都府議を4期13年務める。元民主党府連幹事長。前市長の任期満了に伴う2012年12月の市長選で新人4人の争いを制し初当選。65歳。

## 防災インフラ整備を優先 宇治茶ブランド発信強化

**宇治市** 京都市や大津市に隣接し、人口は京都府内2位の約19万人。宇治茶で知られ、宇治上神社や平等院など観光資源があるほか任天堂工場も立地。

——災害、防災対策をマニフェストの一丁目一番地に掲げた。

昨年8月に京都府南部を襲った豪雨災害で全壊や床下浸水などの被害が2000戸を超えた。府会議員時代や市長当選後も現地を回り、厳しい状況を目の当たりにした。インフラ整備は最優先課題。今後4年で43億円を投じ、壊れた道路や河川の復旧に全力を注ぐ。災害に強い町づくりに向け地震発生時の避難方法など危機管理体制も強化する。

——子育て、教育の充実を訴えている。

学力向上やいじめ対策、家庭教育などを一体的に支援する「教育研究所(仮称)」を2014年4月以降に設置できるよう準備している。教育と子育てを横断的に支援する組織を持つのは市町村単位では珍しい。教育委

員会と各部局との連携が難しいが、子どもが夢と希望を持てる社会に向けて非常に意義深い取り組みだ。いじめや不登校をなくするために大きな役割を果たすだろう。ワークライフバランスを進めて子育てしやすい環境も整える。

——宇治茶ブランドの発信や観光客誘致も町おこしに欠かせない。

著名な宇治茶を国内外の人に飲んでもらい、茶の持つ文化を<sup>けんてん</sup>喧伝していきたい。全国の茶産地から関係者を集めて生産技術向上や消費拡大を狙ったイベント「全国お茶まつり」が今年は59年ぶりに宇治市で開催される。絶好の機会を生かして後継者育成やブランド発信に努めたい。宇治市には世界遺産の宇治上神社や平等院(現在ともに修理中)、平安時代の貴族の生活などを紹介する「源氏物語ミュージアム」など観光施設が多い。

——職員数削減など大胆な行財政改革に乗り出している。

課や室の統廃合など抜本的に組織を改正して14年4月の立ち上げを目指している。これは

単なる職員削減でなく、肥大化した組織を効率化するためだ。市民の声を反映しやすくしてサービスの質を高めるほか、全国的に高い職員給与の抑制にもつなげる。企画立案や政策能力を高める研修会など職員意識の底上げも徹底する。

——行政を進める課題は何か。

地方自治体にとって今後のテーマは「自立」だ。これまでの依存型から脱却して戦略的な行政のかじ取りが求められている。職員には日々の業務をこなすだけでなく、長期的な政策を先例にこだわらずに企画してほしい。宇治市の職員は優秀だ。未来への種まきとして何ができるかを考えていきたい。財政面では歳出は「選択と集中」を徹底するほか、歳入を増やす策も必要だ。国や府、商工会議所と連携して産業育成や雇用拡大を図り、新しい宇治市をつくる。

(聞き手は

京都支社 角田 康祐)